

令和８年度第１回防府市廃棄物減量等推進審議会 議事概要	
開催日時	令和８年６月１８日（木） 午前１０時００分～１２時００分
場 所	防府市クリーンセンター 可燃ごみ処理施設２階会議室
出席者	<委 員> 土井委員（会長）、由川委員、藤井(三)委員、阿部(幹)委員、松永委員、長尾委員、持佛委員、田中委員、梅田委員、山本委員、磯野委員、太田委員、阿部(新)委員（副会長）、今村委員、佐賀委員、西村委員、藤井(学)委員 <行 政> 池田市長 （事務局） 桑原クリーンセンター所長、松永所次長、山崎所次長補佐、梶山室長、岸本調整係長、弘中庶務係長、永田主任、山本主事
欠 席 者	中司委員
傍 聴 者	２名

１ 開会 <省略>

２ 市長あいさつ <省略>

３ 会長あいさつ <省略>

４ 諮問「防府市ごみ処理基本計画中間見直しについて」
市長が諮問書を読み上げ、会長に手渡す。

５ 議事

(１) プラスチック資源一括回収事業について

(事務局) 参考資料１Ｐの説明

(委員)

今まで可燃ゴミとして捨てていたプラスチック製品も資源ごみとして回収するという認識でよいか？また、プラスチックの中にも色々種類があるが、違う種類が混ざっても大丈夫なのか？

(事務局)

現在プラマークの付いたプラ製容器包装を収集しているが、それに加えてプラスチック素材１００％の製品も一緒に回収するもの。

プラスチックには、ポリエチレンやポリプロピレンなど様々な種類があるが、再

資源化をする事業者にはプラスチックを分けられる装置があり、すべて一緒に出してもらって問題ない。ただし、ペットボトルについては、有価で価値が高いものとなるため、現状通りペットボトルのみとして収集を続ける。

(委員)

プラ製容器包装とプラスチック製品は、別の袋で排出するのか？同じ袋に混ぜて大丈夫なのか？

(事務局)

プラ製容器包装と混ぜて、45L以内の無色透明袋で大丈夫である。

(会長)

子どものおもちゃには、プラスチック製品に金属が混ざっているものがあるが、どのように出せばよいか？

プランターは、長年使うと汚れが取れないが、そのまま出しても構わないのか？

(事務局)

金属がついているものについては、今回の一括回収には適していないため、不燃ごみに出してもらおう。分別で金属部分が取り除けるのであれば、プラスチック資源として出せる。

プランターは、土や汚れが取れない場合は、今までどおり燃やせるゴミとして出してもらおう。

(委員)

以前は、無色透明でなく、半透明の袋でもプラの回収をしていたが、今は透明でないと回収しないのか？

(事務局)

以前から、案内としては無色透明の袋で排出してもらおうようお願いしている。ただし、プラの回収が始まった時期には、周知が行き届いてない部分もあり、半透明な袋でも回収していたかもしれない。決まりとしては、無色透明な45L以内の袋をお願いしている。

(会長)

岩畠地区で行なった実証事業の際に出た意見や気づきがあれば教えてほしい。

(事務局)

約千世帯で行ない、アンケートを取った。プラスチックとして出しているのか分からない製品が多くあり、チラシ1枚では伝わらない部分もあるので、いろいろな方法で周知を図っていきたい。

(会長)

プランターなど大きいものは袋に入らないサイズのものもある。大きいものは切
って出してもよいのか？

(事務局)

プラスチック 100%素材であり、一辺の長さが50cm以内、厚さ5mm以内
のものが対象となる。切ったり、割ったりして基準内の大きさにできればプラスチ
ックとして出してもらえるが、小さくできないものは今までどおり可燃性粗大ごみ
として出してもらう。

(委員)

これは家庭ごみに限ることなのか？事業ごみも同様に出してよいのか？

(事務局)

従業員が休憩中に食べる弁当ガラ等のプラスチック製品であれば資源ごみとし
て出してもよいが、事業活動に伴い排出される廃プラスチックは、産業廃棄物にな
るため、回収できない。今までどおり産業廃棄物として適正に処分をしてもらう。

(委員)

回収の開始時期はいつになるのか？

(事務局)

令和9年3月開始となる。

(会長)

事務局においては、開始に向けて市民に対して丁寧な説明、周知をお願いする。

(2) 防府市ごみ処理基本計画の中間見直しについて

第1章

(事務局) 第1章の説明

「防府市ごみ処理基本計画（中間年度・見直し）」（案）P1～P6 説明
委員からの意見特になし

第2章

(事務局) 第2章の説明

「防府市ごみ処理基本計画（中間年度・見直し）」（案）P7～P39、
参考資料P2～P3 説明

(会長)

資源ごみについては、市内の事業者がいろいろな所で回収しているが、その数値は、含まれているのか？市が回収したもののみの数値となっているのか？

(事務局)

市が回収したものと自主搬入地区等が集団回収でリサイクル組合に持ちこんだもののみの数値となっている。

(委員)

事業所にて回収している量は必要ならば報告することができる。

1人1日当たり家庭系ごみ排出量が令和6年から7年にかけて526gが538gに増えているのはなぜか？

(事務局)

令和7年は、罹災ごみが多い年であった。また、データではないが、高齢化により施設に入られたり、空き家の整理をしたりするための片付けの際に多くのごみを排出される方が昨年くらいから増えている。これらが、増加した原因であると考えている。

(委員)

小型家電の回収ボックスをいろいろな所に置いているが、小型家電の回収量は増えているのか？増えた方がよいのか？

(事務局)

小型家電の市での回収量は、増減なく横ばいである。

割合としてリチウムイオン電池を含む製品が増えているようである。

レアメタルが含まれる製品は、有価で売却できるため増えた方がよいが、処理費がかかるものが多いので、増えた方がよいかどうかは、ものによる。

(委員)

地区のごみ当番をしていると小型家電が多く出てくる。リチウムイオン電池等危険なものが使われているのか、普通の乾電池の製品なのかよく判断できない。最近では、デジタル機器を使う機会が多いので、子どもたちに学校や家庭で危険性をしっかり教える必要があると思う。ちなみにどのように発火するのか？

(事務局)

危険であると記載しているが、正しく恐れる必要がある。正しく使っていて発火するような危険なものであればこれほど普及はしていない。施設として危険なのは、燃やせるゴミや資源ゴミに混入されてしまい、例えば焼却炉に入る前のゴミピットや破碎機の衝撃で発火してしまい、大きな事故につながってしまうことである。

正しく分別するだけで防げることが多くある。

(委員)

電池は外して出すべきか？

(事務局)

外せるものは、外して出してもらう方がよいが、最近は内蔵型で電池を外せない製品が多いのでそのままでよい。危険なのは膨らんでいるスマホやモバイルバッテリーなどであり、こういった場合は、家電回収ボックスにいれずに直接クリーンセンターへ持込みしてもらうよう周知している。

また、子どもへの周知だが、市内すべての小学校で4年生の社会見学においてクリーンセンターへ来る。その際に実物を見せながら、リチウムイオン電池の危険性を含めた話をしている。

(委員)

現状、乖離が多いというのは、目標値ばかり高すぎるのではないかな？現状とあわない目標となっているのではないかな？

(事務局)

後ほどの説明において、目標値の見直しについても説明したい。

第3章

(事務局) 第3章の説明

「防府市ごみ処理基本計画（中間年度・見直し）」（案）P40～P47、
参考資料P4 説明

(委員)

リサイクル率について全国や山口県に比べて防府市のリサイクル率は低くなっているが、どういった理由があるのか？また、それを踏まえてどのように数値目標を設定したのか説明をしてほしい。

(事務局)

防府市では、生ごみをバイオガス化しているが、令和5年に国が新たな算定方法を示したことにより、リサイクル率が下がったことが理由の一つである。ほかのリサイクル量に変更ない。

(委員)

防府市では全国や山口県レベルのリサイクル率を目指すことは難しい、全国平均より下に設定せざるを得ないのか？

(事務局)

算定方法が変更となり、全国平均を超えることは難しくなった。

(委員)

現状の結果について、様々な要因があるかと思うが、数値に向き合いしっかりと議論することが必要であると考えます。

(委員)

事業系ごみの量が増えているが、事業所数は年々減少している。事業所数が減少する中で事業系ごみが増えている理由は何か？

(事務局)

基準年の令和2年度はコロナ禍であり、オンラインを使うなど今に比べて事業活動が活発でなかったことによりごみ排出量が少なかったと考えられる。

第4章

(事務局) 第4章の説明

「防府市ごみ処理基本計画（中間年度・見直し）」（案）P48～P67 説明

(委員)

食品ロス削減について、フードバンクポストの設置、フードドライブの認知度について、数値が低い。しっかりとアピールをしてもらえば、食品ロスが減るのではないかと思う。また、フードバンクポストに入れるものは賞味期限が1か月以上となっていたが、賞味期限はおいしく食べれる期限であり、消費期限ではないので、賞味期限が1か月を切ったものでも入れてもよいのではないか？

(委員)

環境省も賞味期限はおいしく食べられる期限であり、食べられなくなる期限ではないと言っているが、社会的にはまだ認知されているものではないので、現状ではまだ賞味期限が切れたものを配ることはできない。

この計画について、全体的に具体性がない。普及啓発が中心になっており、市民の方に行動変容を促す仕掛け、施策をしないと食品ロスだけでなく全体的に目標達成が難しいと思われる。

(委員)

4月にゴミ袋代が上がっているが、ゴミ処理の各工程でどのような費用が上がっているのか？

(事務局)

主に上がっているのが原油価格による影響と処理に携わる人の人件費が上がっている。ごみの総排出量は減っているが、収集ルートは同じようにパッカー車等で収集するためガソリン価格が上がれば、費用は上がる。

第5章

(事務局) 第5章説明

「防府市ごみ処理基本計画（中間年度・見直し）」(案) P68～P72 説明

(委員)

食品ロス量の推計値は、どのように出しているのか？

(事務局)

家庭系可燃ごみ量に組成調査による厨芥類の令和元年度の割合を乗じて食品廃棄物発生量を推計。その数値に環境省実態調査による食品ロス量の割合を乗じて、食品ロス量を推計している。

(委員)

38ページの食品ロスの削減に関する課題の文章で、令和4年度の発生量を掲載しているが、令和5年度の数値が出ているので、新しいものに変更した方がよい。

(事務局)

確認して、修正する。

第6章

(事務局) 第6章の説明

「防府市ごみ処理基本計画（中間年度・見直し）」(案) P73～P74 説明

(委員)

市のLINEにおいてごみのカレンダーが確認できるとのことだが、外国語にも対応しているのか？

小型家電ボックスを利用する際に投入口から入れた際に高さがあるため結構な衝撃がかかり、危険ではないか？クッションなど入れるべきではないか？

クリーンセンターで休日もびんの回収をしているとの情報は、市広報などで周知しているのか？

(事務局)

LINEについては、地区設定をするとゴミ出しに日に通知が届く、現状としては、外国語への対応はしておらず、日本語のみとなっている。

小型家電ボックスは、燃えない素材でないといけなため、クッション性があり燃えない素材はどのようなものがよいか検討しているところである。

びんの回収については、市広報、ホームページ、ごみカレンダー等にて周知をしているところであるが、周知が行き届いてない点があるので、更に周知を進めていく。

(委員)

外国語への対応は必ず必要である。

(委員)

ごみは、生活上必ず出るものであるが、多くの人ゴミステーションに出した後どのように処理されているのか、どのくらいのCO₂が出るのか意識していないと思う。やはり、啓発が必要であり、子どもへの家庭や学校での教育が必要である。

47ページのコラムで、毎日バナナ1本分のごみを減らしましょうというのは、わかりやすく良いと思う。

(委員)

紙ごみについて、個人情報が入った書類について、燃やせるごみに出していることがある。回収場所に大型のシュレッダーなどを設置してもらえれば、資源として排出される人が増えるのではないかと思う。

5 閉会